

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/福祉学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
現代社会と福祉 I		必修 (福) 選択 (理.作)	2	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
古川 奨	B313	t-furukawa		水曜日 12:10~13:00	
授業の目的・概要	<p><目的> 社会福祉の基本理念と原理を学習し、現代社会における福祉について理解を深めることを目的とする。</p> <p><概要> 課題学習、同時双方向型授業を通し身の回りにある福祉についての視野を広げる、学生によるパワーポイントによる発表も行う。社会福祉の視点、政策、福祉の思想と哲学について講義し、教員と受講生相互の応答、課題学習に対するフィードバック、質疑応答を行うことで福祉の実際について理解を深める。</p>				
学習上の助言	この授業では、学生同士の考えや意見を基に討論を進めるため、欠席せず、積極的に授業へ参加することが望ましい。				
教科書	新社会福祉士養成講座 4 第 4 版 現代社会と福祉／編：社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版				
参考書	適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	自分の福祉観と他者の福祉観を共有し、議論することができる。			HSU(1)(3)(5)(6) 社・精・心(1)、社・精(2)	
②	社会福祉の視点と枠組みについて理解し、説明できる。			HSU(2)(3)(5)(6) 社・精・心(1)、社・精(2)	
③	福祉の思想と哲学について理解し、説明できる。			HSU(1)(2)(4) 社・精・心(1)、社・精(2)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	課題を通して授業の進め方、評価についての説明、社会福祉を学ぶことの意義について学習する。	課題送付・提出・フィードバック	シラバスの熟読・教科書のはじめに及び目次を予習	2	
2	課題を通して自分が知っている福祉について共有し、他者が考える福祉との共通点や相違点について学習する。	課題送付・提出・フィードバック	自分が知っている福祉についてまとめる。	2	
3	課題を通して社会福祉や政策の関係を理解し、社会福祉にかかわる専門職を知る上での基本を学習する。	課題送付・提出・フィードバック	教科書のはじめから P4 までを閲読する。	2	
4	課題を通して福祉国家について理解し、社会福祉がどのように国民をささえているのかについて学習する。	課題送付・提出・フィードバック	教科書の P6 から 21 までを閲読する。	2	
5	課題を通して日本の福祉を考えるうえで重要な社会変化について学習する。	課題送付・提出・フィードバック	教科書の P22 から 30 までを閲読する。	2	
6	課題を通して価値規範としての福祉について学習する①	課題送付・提出・フィードバック	教科書の P31 から 38 までを閲読する。	2	
7	課題を通して価値規範としての福祉について学習する②	課題送付・提出・フィードバック	教科書の P39 から 50 までを閲読する。	2	
8	社会福祉の視点と枠組みについて学習する。	同時双方向型授業	指定教科書の目次部分を閲読する。	2	
9	社会の変化と福祉について学習する。①	同時双方向型授業	指定教科書の目次部分を閲読する。	2	
10	社会の変化と福祉について学習する。②	同時双方向型授業	指定教科書の目次部分を閲読する。	2	
11	福祉と福祉政策について学習する。①	同時双方向型授業	指定教科書の目次部分を閲読する。	2	
12	福祉と福祉政策について学習する。②	同時双方向型授業	指定教科書の目次部分を閲読する。	2	
13	福祉の思想と哲学について学習する。①	同時双方向型授業	指定教科書の目次部分を閲読する。	2	
14	福祉の思想と哲学について学習する。②	同時双方向型授業	指定教科書の目次部分を閲読する。	2	
15	14 回までの総まとめ。	同時双方向型授業	14 回までの総復習をする。	4	

【2020 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/福祉学系】

試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照。						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	0	0	0	50	100
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	25	25
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	25	25
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	定期試験を実施し評価する。試験内容は、同時双方向型授業で説明した内容から学生が達成すべき行動目標に示した部分の理解度を問う問題を出題する。			定期試験後、解説を研究室前に張り出す。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	第7回までの課題、同時双方向型授業後のリアクションをまとめるための課題や提出物を評価する。			課題、リアクションについては、必要事項について同時双方向型授業で説明を加える。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を奨励します。尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもあります。</p> <p>「授業計画」の事前事後学習に加え、講義中に紹介した図書、映画、動画資料などを閲覧し、幅広い視野から社会福祉の学びを深めることを課題として課す（28 時間）。</p> <p>教員の実務経験：教員の实務経験：ソーシャルワーカー、精神保健福祉士として 9 年の臨床経験。 実践的授業の内容：学生が身近に感じている福祉を共有しながら、教科書に記載されている一般的事項を確認する。精神保健福祉士としての教員自身の実例を示し、専門家が提供する福祉と地域住民が求める福祉に関する認識の違いについて学習する。</p>							